

スプレーギク*1 の新品種 「アイセイカーラ」 を開発しました



「アイセイカーラ」

イノチオ精興園株式会社と愛知県農業総合試験場は、スプレーギク新品種、あきけいひんしゅ秋系品種※2の「アイセイカーラ」を開発し、6月17日付けで種苗法に基づく品種登録出願を行いました。

なお、「アイセイカーラ」は愛知県農業総合試験場と共同研究で開発しました。

2 「アイセイカーラ」

本品種は、美しい花の姿に加え、キク矮化病に極めて強く、本病の感染、発病を心配すること無く栽培ができます。今後、秋から翌春まで出荷が可能なピンク色スプレーギクの主力品種として普及することが期待されます。

(1) 新品種の特徴

- ア キク矮化病に強い抵抗性を示し、感染、発病しません。
- イ 寒い時期にも茎がよく伸びるので、安定して出荷できます。
- ウ 花持ちは、秋系の従来品種と同程度で、3週間程度観賞できます。

(2) 開発の経緯

キク矮化ウイルス (Chrysanthemum stunt viroid, CSVd) によって引き起こされるキク矮化病は、日本国内では1977年に初めて発生が確認されました。CSVdに感染したキクは健全なキクに比べ草丈が低くなり、商品性が大きく損なわれます。キク全体で約25億円の被害（農研機構野菜花き部門推計）があります。産地では本病の発生が後を絶たず、スプレーギク主要品種に強い抵抗性を持つものがないことか

ら、抵抗性品種の早期開発が望まれていました。

そこで、キク矮化病抵抗性の育種素材を保有する愛知県農業総合試験場と共同で、本病の抵抗性を有し商品性にも優れた品種の開発に取り組みました。

「アイセイカーラ」は、平成 28 年に育成を開始し、以後選抜・現地試験栽培を繰り返し開発しました。

3 関連説明

※1 スプレーギクは、茎から小枝がスプレー状に広がって多数の花を咲かせるタイプのキクです。花の形や色に様々なバリエーションがあるため、花束、生け花、テーブルフラワーなど様々な用途で利用されています。

本県は全国一の産地で、作付け延べ面積 190ha、出荷本数 8,500 万本、産出額 53 億円です。県内の主な産地は田原市、豊川市です。

(平成 30 年産 県園芸農産課調べ)

※2 スプレーギクには夏（7～9月）に開花・出荷する夏秋系品種と、秋から翌春（10～6月）に開花・出荷する秋系品種があります。

4 共同研究機関の問合せ先

愛知県農業水産局農政部

農業経営課 技術調整グループ

担当 鬼頭、福田

内線 3666、3663 ダイヤルイン 052-954-6410

愛知県農業総合試験場

東三河農業研究所花き研究室

担当 奥村、石原

電話 0532-61-6235(内線26) ダイヤルイン 0532-61-6293

5 品種に関する問い合わせ

各担当営業員までお気軽にお問合せ下さい。